

ポートアイランド地区へのアクセス基礎調査

1. 調査概要

ポートアイランドは、名古屋港の航路及び泊地のしゅんせつに伴い発生した土砂を受け入れるため、国が埋立てを行っているところである。本組合としては、将来において、物流、産業、交流、環境などの利用が想定される港内に残された大きな可能性を有した空間であると認識しており、将来いかなる活用が図られるとしても、その活用に不可欠なアクセスについて、平成28年度に基礎的な調査を行った。

当該調査においては、鍋田ふ頭、飛島ふ頭、金城ふ頭など複数の埠頭の道路、鉄道に接続するルート抽出を行うとともに、想定される船舶や港湾施設等の条件、類似した他事例等の情報を踏まえて整理したところ、**大型船舶の航行を始めとする名古屋港の機能維持を図るためには、大規模な施設が必要**になることとなった。

2. 主な条件

項目	内容
想定船舶	現在就航している又は建造が計画されている船舶の最大船型 高さ:クルーズ船(水面上65.0m) 喫水:コンテナ船(東航路16.0m、中・西航路14.0m)
港湾施設	航路幅(東航路600m、中・西航路430m)及び泊地の配置 岸壁基礎杭深さ(飛島ふ頭岸壁等) :N.P.-31m ~ -61m 荷役機械高さ(飛島ふ頭ガントリークレーン) :N.P.+103m ~ +127m
海底埋設物	名港導水路海底トンネル :管底高N.P.-27m ~ -32m 西名古屋火力発電所用ガス導管 :管底高N.P.-37m ~ -50m
大規模事業所	コンテナターミナル、火力発電所、製鉄所等

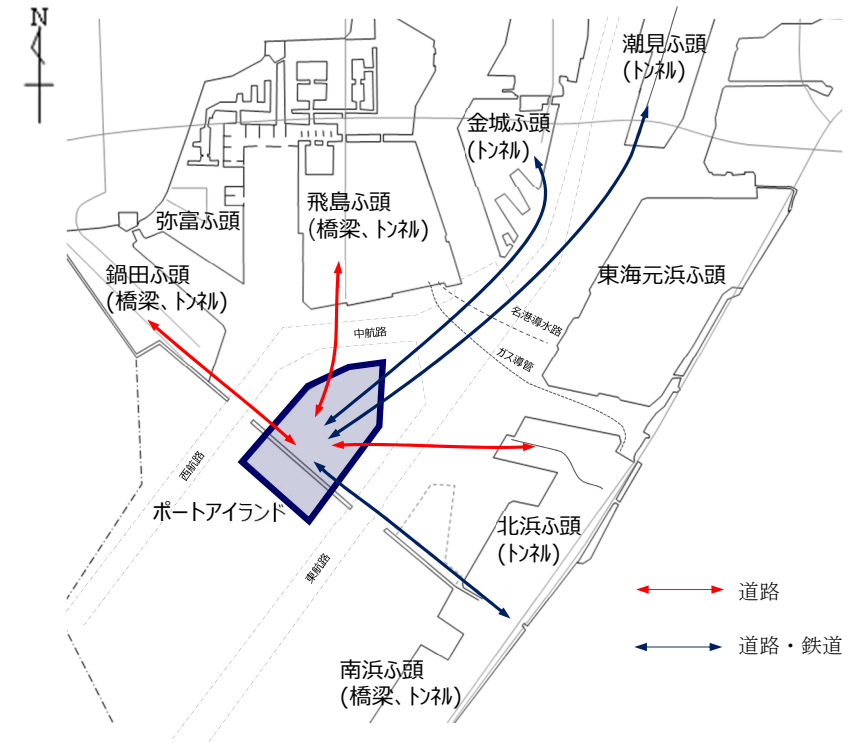
※ 航路幅は、高潮防波堤の開口幅内で航行できる最大幅として設定
※ N.P. : 名古屋港基準面

4. 主な施設規模

施設	規模		参考費用
橋梁	ルート延長	約3,400m ~ 7,300m	約1,000億円 ~ 1,800億円
	桁下高	水面上69.0m	
トンネル	ルート延長	約2,200m ~ 8,300m	約1,300億円 ~ 3,700億円
	天端高	N.P.-18m ~ -69m	

※ ルート延長は、取付を含む。
※ 橋梁の桁下高は、余裕高等を考慮して設定
※ トンネルの天端高は、航行船舶に必要な余裕水深、トンネルに必要な土被り厚等を考慮して設定
※ 参考費用は、類似した他事例を基に設定した面積当たり費用等による推計(鉄道は駅舎・保安設備費等は含まず)であり、支持層の深さなどの地盤条件による下部構造、施工方法等により金額は変動する。

3. 整理したルート



<参考>

名称	施設	規模
名港中央大橋	橋梁	橋長:1,170m
		桁下高:水面上55m
新衣浦海底トンネル	トンネル	延長:1,550m
		天端高:K.P.-14m

※ K.P. : 衣浦港基準面